創世ホール通信 No.271

催し案内＋文化ジャーナル
2017年8月1日発行■北島町立図書館・創世ホール
電話088・698・1100◎ファクシミリ088・698・1180
771-0207◎徳島県板野郡北島町新喜来字南古田91◎

徳島ワークショップフェスVOL.2

8月5日（土）－6日（日） 10時～17時

会場●2階ギャラリー　＊最終日は16時迄

主催●ちくちくくるり（☎088・697・0767）

あかちゃんとお母さんのためのビデオ上映会「げんきげんきノンタン」

8月10日（木） 11時～

会場●2階ハイビジョン・シアター　無料

内容●「げんきげんきノンタン」（32分）

対象●0歳から3歳までの乳幼児とその保護者

主催●北島町教育委員会（☎088・698・9812）

■子育て支援の催しです。乳幼児とお母さん・お父さん歓迎。大きなシートを用意しているので、赤ちゃんがはいはいしても、よだれを垂らしてもだいじょうぶ。オムツ換えもできます（でも紙おむつは持ち帰りでお願いしますね）。

きたじまひょうたん阿波おどり

8月13日（日） 11時～13時

会場●3階多目的ホール　無料（要整理券）

主催●北島町商工会

徳永真一郎ギターリサイタル

8月18日（金） 19時～

会場●3階多目的ホール

入場料●前売／一般2000円、学生1000円（当日各500円増）

出演●徳永真一郎（徳島市出身、2007年からフランス在住、29歳）

演奏予定曲目●「ファンタジア　第10番」（L.ミラン）、「ソナタ第3番」（ポンセ）、「暁の鐘」（デ・ラ・マーサ）ほか

主催●徳島ギター協会（川竹☎088・631・2366、088・631・7893）

■パリで活躍中のギタリスト・徳永真一郎の凱旋（がいせん）帰国公演が北島町で実現。お見逃しなく！■創世ホール常連の徳永君は、2007年からフランス留学。2016年7月パリ国立高等音楽院修士課程を首席卒業。一層の活躍が期待される。

植物と貝に名前をつける会

8月19日（土） 10時～16時

会場●2階ハイビジョン・シアター　無料

講師●河野圭典先生（貝）、木下　覺先生（植物）

主催●北島町立図書館（☎698・1100）

■事前に下調べをしてきてくださいね。

第27回北島町平和のつどい「象のいない動物園」

8月19日（土） 2回上映　①10時～　②14時～

会場●3階多目的ホール　無料

作品●「象のいない動物園」

主催●北島町・北島町平和のつどい実行委員会（☎088・698・1100）

江富久雄◎こども写真展

9月1日（金）－3日（日） 10時～17時

会場●2階ギャラリー　無料

主催●江富久雄こども写真展実行委員会（☎088・698・6888）

創世ホール名画観賞会26 人生フルーツ

9月30日（土） 3回上映

①10時30分～　②13時～　③15時～

会場●2階ハイビジョン・シアター

入場料●大学生・一般／前売1000円（当日1200円）、小・中・高・シニア（60歳以上）当日のみ1000円

作品●「人生フルーツ」（2016年、日本、91分）

出演＝津端修一、津端秀子　ナレーション＝樹木希林　音楽＝村井秀清

監督＝伏原健之

主催●北島町立図書館・創世ホール（☎088・698・1100）

■人生は、だんだん美しくなる■津端修一さん90歳、英子さん87歳。風と雑木林と建築家夫婦の物語■風が吹けば、枯葉が落ちる。枯葉が落ちれば、土が肥える。土が肥えれば、果実が実る。こつこつ、ゆっくり。人生、フルーツ■愛知県春日井市の高蔵寺ニュータウンの一隅。雑木林に囲まれた一軒の平屋。それは建築家の津端修一さんが、師であるアントニン・レーモンドの自邸にならって建てた家。四季折々、キッチンガーデンを彩る70種の野菜と50種の果実が、妻・英子さんの手でおいしいごちそうに変わります■長年連れ添った夫婦の暮らしは、細やかな気遣いと工夫に満ちていました■「家は暮らしの宝石箱でなくてはいけない」＝これはモダニズムの巨匠、ル・コルビュジェの言葉です■ナレーションを務めるのは樹木希林。この国がある時代に諦めてしまった本当の豊かさへの深い思索の旅が、ゆっくりとはじまります■会場は2階ハイビジョン・シアターです。多数、ご参集ください。

文◎化◎ジ◎ャ◎ー◎ナ◎ル

より良い文化施設をめざす視線を（上）

2017年７月15日とくぎんトモニプラザでの発言●小西昌幸

●2017（平成29）年07月15日（土）18時30分から、市民グループ《文化センターの存続を求める会》主催で《一日も早い「市民のホール」実現に向けて～市民パネルディスカッション》という会がありました。たまたま私は、出演依頼を受け、そこで話す機会がありました（会場は、徳島市のとくぎんトモニプラザ４階会議室２）。そこでの私の発言を２回に分けて掲載します●誤解されがちですが、ホールというのは建設したら終わりではなく、そこからがスタートになるわけです。充実した施設にするためには、企画力などソフト面をどう充実させてゆくかということがとても重要だと思います●徳島市の場合、現段階ではまだ建設も始まっていませんから、もっと手前の部分、「より良い文化施設をめざす視線」について提案できたらと考え、発言しました。あくまで粗雑な論考であり、大した内容ではありませんが、何かの参考になれば幸いです。

◎　◎　◎

■北島町の小西昌幸と申します。私は何度か創世ホールでの取り組みなどについて語ったことがありますので、ここでもいつも話していることをお話したいと思います。ですから、以前聞いたことがあるという場合があるかもしれませんがどうかお許しください。

■私はあくまで自分の実体験に基づくこと、裏付けのあること、そこから感じた感想などをお話して、皆さんの参考にしていただければと思っております。

■1990年代に各地で公立文化施設がたくさんできました。徳島県内だけでも、牟岐町、阿南市、羽ノ浦町、板野町、小松島市、山川町などがすぐ浮かびます。このうち、牟岐や板野や羽ノ浦や北島は、同一敷地内あるいは同一施設内に図書館とホールが備わった複合文化施設という形態です。

■北島町の創世ホールは1994年６月にできました。私はその年の８月に異動発令で、ホールの企画や広報などの仕事に関わることになりました。

■前にも市民グループの皆さんの前でお話し、その時にも述べましたが、北島町の創世ホールはいろいろ問題がありました。これは卑下したり、けなしたり、おとしめているのではありません。事実を述べているのです。

■まず創世ホールには、舞台に音響反射板が備わっていなかった。ご承知の通りクラシックの演奏会は、ナマの音が客席の一番うしろの人にも正確に届くことが肝心です。そのため、反響板というものが設置されていなくてはなりません。しかし北島町にはそれがなかった。設計段階では存在したが、予算の問題でカットされたと聞いています。それで、２年がかりで、組み立て式の音響反射板を７台購入しました。阿南市羽ノ浦町のコスモホールは施設に組み込まれた音響反射板が舞台に設置されています。コスモホールは多分県内では一番音響面でよい施設です。

■それから客席に問題があった。可動式のモーターが組み込まれた移動観覧席で330席という座席数なのですが、構造上座席の下が空洞になっているため、足音が響いたりする。それで、当時の所長がいろいろ考えて座席の間の床面にやや厚めのカーペットを張り付けていった。このことでかなり改善できた。

■今私の話を聞きながら皆さんの心には、こいつら阿呆だなあという軽蔑の気持ちがきっと芽生えているのではないかと思いますが、この種の事例はいくらでもあるのです。立場を変えて、皆さんが担当されたとしても何か必ず問題が生じるのです。大事なことは、問題が生じたときに、謙虚な気持ちで誠心誠意を尽くして対策をする、次善の策を講じるということであります。

■それから、客席天井の照明が降りてこない構造になっている。通常はモーターを仕込んで、電球が傷んできたら降ろしてきて交換をするのですが、１個２千円の電球を交換するのに足場を組まないといけないわけであります。業者を呼ぶと数万円かかります。北島町の場合は、なるべくたくさんの電球が切れてから、数年に一度安い業者さんにお願いして電球交換をしています。客席はまだよいのです。大事なのは、天井に設置している舞台を照らす照明が切れた場合です。それも降りてこないのです。ですからそこに一番気を使います。それで、客席の電球交換の際にはその舞台を照らす照明一列をすべて新品の電球に交換します。そしてその時外した球を舞台の真上のバトンにつけて対処しています。舞台のバトンは、さすがにモーターで昇降する構造なので不具合が起これば、予備の球に交換するとよいわけです。

■それからピアノ庫の問題。北島町には、ヤマハＣＦ３というタイプのグランド・ピアノがあり、舞台の横にピアノを収納する部屋があるのですが、そこから出し入れするときに90度回転させなくてはならない。設計が悪いため、入り口の幅がピアノの一番長い幅に合わせられていなかった、あるいは奥行きがそうなっていなかったというわけであります。はらわたが煮えくり返るようなことが、いっぱいあったわけです。当然私の上司の所長さんは、工事中に気がついて業者に文句をかなり言ったのですが、納期が遅れますよ、落成式に間に合いませんよ、と半ば脅しのように言われて、なかなか改善は進まなかったと聞いています。

■そのほかには、空調の機械設備のパッケージ室が舞台のすぐ後ろにあるので、その機械音がするわけです。ですから、本番に空調の電源を切るようなことを今もしています。

■あと二つ、舞台まわりの欠点を挙げておきます。繰り返しますが、私はマゾヒストではありませんし、自虐趣味があるわけでも、暴露趣味があるわけでもありません。少しでもより良い施設を作っていただくために、参考事例として事実を話しているのです。

■創世ホールは、舞台の幅や奥行にやや問題がありました。舞台上手側にスペースがある構造なのですが、ある位置の客席の最前列から袖で待機している出演者が見えてしまうのです。出演者によったら、客席から姿が見えることで、ナーバスになることもあるわけです。その問題はカーテンをつけ、マスクすることで改善しました。

■もう一つの舞台まわりの問題は、その舞台そでで待機しているときに、足音が響いてしまうということでした。これは、舞台横にカーペットを張り付けることで改善しました。

■創世ホールは、以上のような欠点があったわけですが、ホールを利用される人には正直に説明しました。これこれこういう欠点がある施設です。一定程度は手立てを尽くして改善を施しました、むろん根本解決ではないかもしれないがこのように努力してきた。それでも良ければお使いください。という風な説明をしました。

■そのほか、これはよその施設での事例ですが、地下から機材搬入するようになっている施設があって、ところが設計上の問題で天井が低くて失敗したということです。つまり、トラックは、機材を搭載しているときは、車体が下がるのですが、積み荷を降ろすと、屋根の位置が高くなります。天井をトラックの屋根がこすって電球を割るような事態が起きたりする。そこの部分をちゃんと見越して設計されていなかったために、大きな問題が起こった。結局、地下から搬入搬出ができなかった。それで、地上から物凄く不便なままで搬入搬出したということを聞いています。

■今の機材搬入スペースの天井の高さの例にしても、電球をまきあげるモーターのことにしてもなんてことはないようですが、意外と起こりがちなことなのです。それはおそらく、設計業者に問題がある。その業者が、文化ホールなどの設計経験が豊富にあるかどうかということがとても大切ではないかと思います。つまり、営業がとても上手な業者であっても設計がよい業者とは限らない。往々にして行政の工事にはそういう営業の上手な業者が入りがちです。もちろん入札するなり、提案方式で競争もするのでしょうが、ここは非常に問題が起こりやすい部分なのです。よく言われることは、しょせん他人ごとということではいけない、ということです。自分の家を建てるつもりなら、もっと真剣にもっと性根を入れて取り組むだろう、ということです。

■これらは今日客席に徳島市役所の人がいるなら、ぜひ肝に銘じていただきたい。ただ、大きな組織は問題があって、途中で人が変わって、大切なことや肝心なことがうまく伝達できなかった、あれほど言ってきたのに一番肝心なことが抜けてるじゃねえかー、というような事態が平気で起きるのです。唖然とするようなことがいくらでも起こります。責任を持って体を張って、熱意を持って取り組む覚悟のある人が必要です。今の遠藤市長さんは私も番組でご一緒したことがありますし、そういう覚悟をじゅうぶんお持ちの方だと存じますが、実際に工事や設計に関与し監督するのは部下の人たちですから、ぜひとも良い人材～責任感の強い人たちをそろえて、取り組んでいただきたいと思います。私はいつでも、要請さえあれば、先ほどから、話してきたようなことを、関係者の人たちに話したいと考えています。

■今までお話してきたことは、施設のハード面、建築構造や設計などの方面の事例でした。もう一つ施設のハード面に触れておきますと、市民劇場などの演劇の場合は11トントラックが舞台装置などを運んできます。市民劇場などの演劇の場合には11トントラックが通常２台程度ということです。こんどの徳島市のホールにジャニーズ系が来るのかどうか分かりませんが、ジャニーズ系の人たちが大都市のドームなどでやるときには11トントラックが平気で20台とかになると聞いたことがあります。照明機材だけでも物凄いものが使用されるということです。ということは、大きなトラックがスムーズに出入りできる道路や回転できるスペースは必要不可欠であるということです。これはとても重要なので強調しておきたいと思います。（次号に続く）

◎　◎　◎